

中高齢者の運転に関する研究 ～自動運転システムの利用意識調査～

田代 真綾

【要旨】

本研究は中高齢者と若者の自動安全運転システムの利用意識の差を明らかにしながら、中高齢者ドライバーがどうすれば新技術（自動運転システム）を利用してより安全に運転することができるのか、その対策について考察した。先行文献レビューで、中高齢ドライバーの運転事故や自動運転システムの中高齢者の利用や免許返納意識を把握した後、若者（大学生～40歳未満）と中高齢者（40歳以上）を対象に運転や自動運転システムについてアンケート調査を行った。その結果、中高齢者は若者に比べて自動運転システムの利用意識が高いもののシステムを利用したい理由が若者と異なることが分かった。中高年者がシステムを利用したくない理由に「操作の難しさ」が挙げられた為、中高齢者ドライバー向け自動安全運転システムの使い方講座を開く、分かりやすい説明書を作る等の対策があると自動運転システムを利用してより安全に運転できるようになるのではないかと考えた。

【講 評】

本論文では、高齢ドライバーによる運転事故の防止という、社会的意義のある研究主題が設定されている。また、自動運転システムという新しい技術に着目して、その適切な利用を促す方策が検討されている。結論を得るために、定量調査を実施し、統計ソフトを用いて有意差検定を行い、予算の制約から標本数や抽出方法に制限のある中で、一定の信頼性を担保する結果を得ている。結論は、「操作の難しさ」が中高齢ドライバーの自動運転システムの利用を妨げる要因となり得るため解説書や講座の活用が望まれるとして、一定の独自性が認められる主張を展開しており、卒業論文として高い水準にあると言える。